



創立70周年スローガン「目指せ!! あいさつ日本一!!」

菊陵中だより

北九州市立菊陵中学校
平成28年12月1日発行
校長 善家 三知代

特別号

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

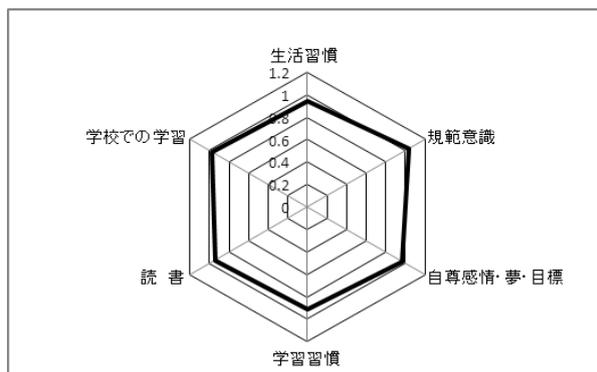
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全体的には、全国平均正答率をやや下回っていたが、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項は全国とほぼ同程度である。 ・書くことに関する問題に課題があり、話を聞いて要点をまとめる練習をしたり、書くことを習慣化する必要がある。	下回っている
国語B	・文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く問題の無解答率が全国の2倍以上あった。	下回っている
数学A	・全国平均正答率を下回っているが、昨年度より上昇していた。領域別では、数と式に関する問題は全国平均とほぼ同程度だったが、関数や資料の整理に関する問題を苦手とする生徒が多く、今後の課題である。	下回っている
数学B	・全体的には全国平均正答率を下回り、特に関数の苦手意識が高いことが伺われる。 ・関数、文字式、図形などの問題に関する記述式の解答は、無解答率がかなり高く、思考力・表現力を養うことが今後の課題である。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・朝食を毎日食べている生徒の割合は全国と比べて低い。
- ・自尊感情が全国に比べて低いので、生徒の頑張りや成果をほめてやり、また道徳の授業を総合的な学習の時間や学校・学年行事との関連を持たせて取り扱いたいと考えている。
- ・平日の家庭学習の時間が1時間未満の生徒の割合が76.1%と全国の倍以上高く、家庭学習時間の絶対量の不足が課題である。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・授業の中で学習の「めあて」をきちんと提示し、振り返りを行い、「まとめ」を生徒自身のことばで書かせる。
- ・朝自習を教科ごとに1週間、1ヶ月と同教科継続して行い、朝自習テストを実施し、基礎学力の定着を図る。
- ・読書週間を設け、本に親しむ取組を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・学期の最初の学活で家庭学習のやり方を「家庭学習チャレンジブック」を使って指導し、定期考査前の学習計画表で家庭学習の取組方法を確認する。確認後、生徒への個別指導に生かす。
- ・毎日1日1ページノートを通して、家庭学習習慣を身につけさせる。